

NPの取り組み紹介 熊本市植木町

子育てしやすい地域づくりのお手伝い

山東子育て支援委員会「かちゃりばんこ」代表 島田 眞由美

「かちゃりばんこ」結成

私の住む植木町は2年前、熊本市と合併し、今年4月から政令指定都市の仲間入りをします。旧植木町は3万人の町で、地域での町づくりがされていました。その中でも山東地域では、地域ぐるみの子育てを充実させ、子育て応援団での活動を続けています。

平成13年、子育て支援センターで実施していた子育て応援団事業の「ファミリールーター養成講座(家族を応援する人)」に参加し、現在の子育て状況を学びました。その後、支援センターから地域で子育て支援を考えていくことを目標にした

提供、学びや体験できる場をより多くの方に知ってもらおう事でした。そこで町内にある子育て支援機関や団体が一つになり、情報を提供することを目的に「植木いっしょに子育てネットワーク」を作り、情報紙「いっしょネット通信」を発行しています。また、情報交換の場として2か月に1回のネットワーク会議も実施しています。一昨年秋からは主任児童委員も参加し、現在の状況や今後の関わりなど話す場になっています。合併後の私たちの活動は熊本市でそのまま続けることができるようになり、充実した支援の在り方も考えていきたいと思っています。

<ネットワークの仲間>

- ★ 子育て支援センター (3か所)
- ★ 児童館
- ★ 幼稚園
- ★ つどいの広場
- ★ ママサポート (託児)

- ★ 産婦人科
- ★ 熊本市立植木図書館
- ★ 主任児童委員
- ★ あつまれ笑顔にっこり座 (子育て応援団)
- ★ 山東子育て支援委員会かちゃりばんこ
- ★ 地域担当保健師

会を作るためのメンバーとしてのお誘いがありました。日頃から子育て支援に関心があり、私にできることはないかと、考えていたこともあって早速活動を開始しました。平成14年10月に「かちゃりばんこ」(かわるがわるでという意味)を結成しました。もちろん自力での活動はできないので、支援センター(地域ぐるみの事業)と一緒に企画したり、協力して下さる方を探してつなぐこと、子育て中の親子との交流など実践していきました。そんな中、日頃から考えていたつどいの広場やファミリーサポートセンターの必要性などを当時の町長にメンバー全員で直談判し、少し時間はかかりましたが平成17年に2つの事業が始まりました。

メンバー3人でファミリーサポートセンターのアドバイザーを引き受けスタートしました。また、同じ時期に開所された地域交流サロン「ばあちゃんち」への協力では最も力を発揮することができました。築100年を超える古民家で一人暮らしをされているおばあちゃんの家で、部屋はもちろん、庭や畑、少し改装した納屋を借りて「子育て支援センター」として使っているところです。その中で私たちはほんのちょっとした生活の知恵や、野菜を使っの料理、大豆や小麦の収穫、加工など何でもありの場でのお手伝いをしています。私自身も初めて体験することも多く、気軽に足を運べる活動の場です。

このように、人と出会う事や居場所があることは現在の社会の中でとても必要だと感じています。特に転勤や結婚を機にこの町に住む人たちが安心して生活でき、子育てしやすい地域をつくるお手伝いをしたいと考えています。

これまでの活動の中から感じたことは、情報の

NPとの出会い

「かちゃりばんこ」や子育て応援団の活動は県内いろいろなところで紹介していただき、それらのことをきっかけに県の委員会への参加が多くなりました。その頃、熊本県ではNPファシリテーター養成講座(県内の市町村に呼び掛けて)が4年間にわたり実施されており、1年目に受講した2人と委員会で出会ったことでNPを知りました。

地域活動を中心に関わってきたのですが、やはり気になっていたのは、子育て支援の場や地域に出てこられていない親子のことでした。しかし私たちボランティアでは出会ったり、関わったりすることはできない。何か私にできる支援はないのかを考えていた時期でもありました。早速2年目に受講できればと希望しましたが、なぜだか町は手を挙げず、断念しました。3年目は事業が最後かもしれないとの話を聞き、役所へ出向き話をしましたが子育て支援課では取り合ってもらえず、保健福祉課との打ち合わせで、やっと担当の保健師と話ができました。

その後、県の担当から詳細が伝えられ、許可をいただきました。ペアファシリテーターが必要だということで、近くの支援センターにお願いをして一緒に学んでいただける方を見つけてもらいました。NPの詳しい内容はわからなかったのですが、母親の仲間づくりや、母親同士話をしたり共有できる場だと聞き、学ぶことに前向きになることができました。しかし養成講座を受講して感じたのは、自分自身の価値観と向き合ったことや自分の気持ちや意見を言葉にして伝えることの難しさでした。ファシリテーターになることへの不安も感じていたと思います。

地域で暮らす多くの親子にいろいろな体験の場を提供したい

NPの実践から

8月の養成講座から3か月後、実践へと向かいましたが、体験学習サイクルの理解がなかなかできず、計画を立てることの難しさに直面しました。「NPセッション計画の立て方と事例集」はまだ発行されておらず、同じ期で受講したメンバーから情報をもらう形で進めていました。いろいろな方からもらう計画はいつしかだんだんと複雑になり、実際のセッションでは前半、後半ともに時間が足りず、延びてしまう事も多かったと思います。託児の子どもたちや託児者の皆さんにご迷惑をかけてはいけないと思い、話す時間や考える時間が十分ではなかったと反省しました。

参加者は、支援センターやファミリーサポートセンター利用の母親12名に声をかけました。日頃から支援の場へ足を運んでいる参加者もいて、8回終了後からしっかりと仲間づくりができ、現在まで交流が続いているようです。未熟なファシリテーターでしたが、参加者同士の絆は繋がり、その後の子育てにも大きく影響を及ぼしたことは確かだったと思います。聞けば子ども的人数が今では倍になっているとか、母親の力を実感しています。

その後もう一度実施をした頃からセッション計画を立てることに行き詰まり、自信をなくしてしまっていました。そんな時、KKI事務局からセッション計画づくりについてのアドバイスがあったことを知り、もう一度確認のための学習会に参加しました。3部構成にすること（導入、主部、結び）、予習型ではなく復習型になど、今まで実施していたものが違っていることに気づきましたが、学習会に参加してもなかなか理解できず混乱が起きてしまいました。当時から県内のファシリテーター学習会の企画に関わっており、そこで伝えられる内容にも戸惑いを感じていました。

基本に忠実なNPを

平成22年8月、熊本での研修会を開催することができるようになり、ファシリテーターの皆さんに声をかけ、学ぶ機会をいただきました。主に3部構成についての詳しい内容を学び、今まで実施してきた計画との違い、体験学習について等の研修をすることができ、混乱していた私はやっと落ち着くことができました。その後KKIから「セッション計画の作り方とセッション事例集」が出版され、学習会でも活用し、基本に忠実なNPの提供をめざしています。私はこのことをきっかけに、もう一度新たな気持ちでNP実施をすることができるようになりました。『NPは1回2時間を使って、体験学習サイクルを1回まわせるように進めていくことがわかり、参加者同士がゆっくり話せる時間が作れること』だと学びました。

アウトリーチのNPで感じたこと

昨年秋、行政主催で3回目のNPプログラムが

実施されました。町では赤ちゃん訪問事業、3か月、7か月、1才6か月、3才児の集団健診が行われており、気になる親子への関わりを継続しています。今回、保健師からの勧めで集まった母親へのNPをとの依頼があり、はじめての経験ではありましたが実施することを承諾しました。まだ経験も少なく心配だったのですが、ペアファシリとも相談をし、慎重に進めるように心がけました。第1回目から欠席者があり、2回目では半分が休みという状況で、最後まで来れる参加者が何人いるのかと心配でした。また、毎回遅刻者もいましたので、シートや毎回の模造紙は必ず貼っておき、前回やったことの中で話すように心がけました。参加者の中には託児に対する不安と、病気の心配からなかなか参加できず、8回中2回だけの出席の人もいました。



このような状況の中で特に気をつけたことは、ペアで話しあい、その後グループで話すようにしたことです。そうすることで全体への紹介や振り返りができるようになりました。時にはグループでの話にファシリテーターがきっかけを作り進めていくこともあり、私たちもどう対応していいのか迷ってしまいました。終了後は毎回次回のセッションにむけて話し合い、ペアの組み合わせにも気を配りながら進めていきました。

参加者の話からわかったこと

また、託児でも母子の関わりや、生活の中から見えてくる問題がわかり、セッション終了後に保健師、託児責任者との情報交換もするようにしたこと、託児室での参加者の変化が大きかったことも特徴的でした。参加者からは「託児に出すときに後追いをしていなかった子どもが、今日初めて後追いをしてくれました。嬉しかったです」

「終わってから迎えに行くと、私に飛び込んでくれました」、託児者からは「朝きた時と、終わって迎えに来られた時の表情が全く違ってました」などの感想がありました。参加者の話から、外部との接触が少なく第1子の時から子育て支援の場にほとんど出ていないことで、子ども同士が過す体験も少ないことがよくわかりました。今回のNPを通して、同じように子育てをしている親子と出会い話をする中で、自分だけではなかったことを実感できたように思いました。最終回ではだれからともなくメルアドの交換が始まり、全員で確認しあっていました。やっと芽生えたグループの成長を見守りたいと思っています。

植木町（熊本市北区）では昨年からはB Pプログラム（赤ちゃんがきた！）も開始し、初めて子どもを産み育てる母親同士の出会いの場を作っています。初めての子育ての時期にB Pを体験することで、母親の不安感も軽減できるのではないかと思います。そしてこの地域で暮らす多くの親子に体験の場を提供できればと思っています。